

令和8年度第1回 周南市人権教育推進協議会 会議録

【日時】令和8年5月26日（火）10時00分～11時30分

【会場】徳山保健センター 健診ホール

【出席者】委員20名（欠席2名） 教育委員会事務局8名

次第

＜開会行事＞

- (1) 教育長挨拶
- (2) 委員の自己紹介・職員紹介
- (3) 会長・副会長選出

＜協議＞

- (1) 令和8年度人権推進課の事業報告について
- (2) 令和8年度人権教育課の事業報告について
- (3) 委員の意見交換

＜閉会行事＞

- (1) 事務連絡
- (2) 人権教育課長挨拶

会議録（要旨）

1 委員の自己紹介（団体の取組／日頃の活動／人権教育に関する思い 等）

（ともに Smile）

- ・市合併以降、「周南市男女共同参画市民ネットワーク」による企画・運営に携わってきた。男女共同参画推進員を卒業後も地域活動を続けている。
- ・徳山大学時代に、男女共同参画フォーラムにおいて学生とともに企画・開催したことがある。これからも人権に関心を持って学んでいきたい。

（法務局）

- ・人権擁護委員と一緒に、人権啓発活動や救済活動を行っている。
- ・3市3町（周南市、下松市、光市、平生町、田布施町、上関町）を所管としている。
- ・学校等での人権教室、人権の花運動や人権作文コンテスト等の人権啓発活動を通じて、いのちの大切さなどを子どもたちが小さい頃から定着させられるよう考えながら取り組んでいきたい。

(公募委員)

- ・人権を守るために、確かな基盤づくりが大切だと思っている。その中で、困りごとを抱える人が安心して相談できる窓口の充実とともに、市民に広く知ってもらうために、地域交流の場や、地域イベントを通して情報発信を強化し、互いを知り、尊重し合う機会を広げていけたらと思っている。

(公募委員)

- ・消費者協会の取り組みとして、地域に出向いた講座の開催や、消費者トラブルの未然防止・拡大防止のための啓発活動を行っている。
- ・ハートフル人権セミナーには、都合がつく限り参加し、様々な人権問題を学んでいる。
- ・今朝のニュースで、ショックを受けたものがあつた。

(周南市手をつなぐ育成会)

- ・本会は知的障害者の親の会で、親が亡くなった後、子どもたちがどのように生きていけるかを目標に取り組んでいる。
- ・日頃の活動としては、勉強会・研修会をメインとし、情報交換会を行っている。
- ・会員の中にも対人トラブルにあつた人が何人かいた。

(周南市児童相談所)

- ・子どもの家庭の福祉向上を支援するため、日々相談援助活動をしている。
- ・児童相談所では、児童虐待や子どもの擁護相談など、様々な相談に対して日々対応している。
- ・子どもが意見を表明し、その意見を尊重した子どもの人権と権利擁護を意識した対応を大切に、今後もしっかり取り組んでいきたい。

(公募委員)

- ・高齢福祉分野でケアマネジャーとして勤務するとともに、社会保険労務士法人に所属し、ワークサポートケアマネジャーとして、働きながら介護をしている方の支援にも関わっている。
- ・また、私自身も、認知症の親の介護や介護離職を経験するとともに、母として、SNS上のトラブルや不登校など、わが子を取り巻く課題に向き合ってきた。

- ・こうした専門職として支援する立場と、家族として悩みながら向き合ってきた立場の両方から、相手の立場や背景、思いを大切にし、互いに思いやって生きていく土台づくりを、子どもの頃から育んでいけるよう、大人も一生懸命考えていくことが大切ではないかと感じている。
- ・今回参加する中で、自分の現場経験をお伝えしながら、また皆さんのお話をお聴きしながら、自分に何ができるか、実践していくヒントを得られればと思っている。

(公募委員)

- ・現在、放課後子ども教室で活動中。昨年は子どもたちが意見の食い違いによる話し合いと、親を交えた話し合いを繰り返し行ったケースがあった。
- ・もう一つは、少年野球クラブをつくり、市内の子どもたちを集めて野球の指導をしている。
- ・これらの活動を通して、子どもたちが楽しく、明るく、元気に生きてもらいたいという思いで、日々活動している。

(高校校長会)

- ・子どもたちの中には、学校に行きにくいなどの生きづらさや息苦しさを抱えた生徒も一定数おり、そういう生身の高校生をどのように支えていくかを考えることも、本校の大きな使命であると日々実感している。
- ・また、具体的に学校で具現化したわけではないが、男女のジェンダーの問題や、生成 AI の良くない使い方など、いろんな社会問題について今後学校で起こりうるものとして、学校内でも対策を考え始めている状況である。

(小学校長会)

- ・校内研修や、人権教育講演会等で 16 の人権課題をバランスよく実施するように校長会内で共通理解をしているところである。
- ・児童参加型の取り組みを意識して多くの学校で児童の主体性を発揮しながら取り組んでいる。
- ・市内の通級指導教室では自立活動を行っているが、小学校では、今年度から支援充実のために教員が増員された。
- ・近年、子どもの「ポジティブ行動支援」という取り組みが行われ始めている。いわゆる、より良い行動とはどういうものかを教員と子どもたちが共通理解したうえで、教員が良い行動に取り組んでいる子どもの姿を積極的に評価していくことで、良さを増やしていくという取り組みである。

(周南市企業職場人権教育連絡協議会)

- ・現在会員企業は 81 社で、先日役員会・総会を開催し、昨年度の活動・事業報告、本年度の役員の選出等を行った。
- ・本年度は研修会を 3 回予定しており、「ビジネスと人権」という視点から、企業が配慮すべき様々な人権テーマを扱い人権教育の推進を図っている。
- ・今後も会員企業間の情報交換を通じて、職場・企業における人権意識の向上に努めていく。

(周南保護区保護司会)

- ・保護司の仕事は、過ちを犯した人が社会に出て、復帰して、皆さんと一緒に生活していくことを、本人に寄り添って助けていくこと。
- ・少し前までは、自分が保護司であることを周囲に言わない方が一般的に良いと言われていた。しかし少し前から、自分が保護司であることを、「あらゆるところで言ってください」と言われるようになった。それは、犯罪の加害者になることを未然に防ぐという目的と再犯防止という観点から保護司活動に取り組んでいる。
- ・ある少年院の所長から聞いた話だが、「自分の施設にいる子は、今は加害者（犯罪者）だけど、少し前は被害者だったんです」と言われた。どこの子たちも最初から悪い子だったのではなく、大人の責任であり、家庭の教育力や、地域の教育力等が足りなかったのではないかと感じている。
- ・私は、地域で子どもたちの居場所をつくり、家庭の教育力が不足していれば、地域の協力、教育力で補いたいという思いがあり、地域で様々な活動をしている。
- ・私達の対象とする人たちは、平然と差別の中で生きていくことになる。少しでもそういう人たちの思いを理解し、寄り添って、1 日でも早く更生できるよう努めていきたい。

(全日本同和会山口県連合会周南支部)

- ・1 カ月おきに、地域住民、小中学校の先生、行政が集まって同和問題をはじめ様々な人権の勉強会を行っている。
- ・今は地域の高齢化が進み、だんだんと参加者が少なくなっている。先日語る会の 1 回目を行ったが、いつもより人数が少なかった。しかし、人数が少ない中でも充実した会になることが分かり安心した。

(周南市民生委員児童委員協議会)

- ・高齢者の見守り、相談対応や児童の見守り等を行っている。
- ・個人情報も扱うため、基本的人権を踏まえた活動をするよう皆心がけており、先日も民生委員総会で人権教育課から人権について学んだ。今後も日々勉強を重ねていきたい。
- ・ハートフル人権セミナーにも参加しており、感想を民生委員の情報誌に載せ、民生委員間の周知に取り組んでいる。

(中学校長会)

- ・中学校では市の中学校研修会の人権教育部会や、各校の担当者を中心に人権教育を推進しており、人権教育の研修会や講演会の実施、実践事例集の作成に携わっている。
- ・学校で起こるいじめ、SNS、生成AI等のトラブルの多くは、人権問題と密接に結びついており、これらを未然に防止するという観点からも、基本的には学校生活全てが人権教育であることを、校長会で共通認識とした上で、各学校に伝えているところである。
- ・教職員の意識・態度の向上が子どもの人権感覚を磨くための鍵だと考えている。
- ・また、子どもたちの人権感覚を磨くためには学校だけでなく、保護者や地域の方との協力・連携が重要だと感じている。

(公立幼稚園長会)

- ・幼稚園、保育園では園生活全体をとおして子どもたちが安心して過ごせる人権保育について取り組んでいる。
- ・保育に関わる大人、私たち職員は、とても大切な役割と考え、各幼稚園年間指導計画をたて担当の職員が中心となり、研修を行っている。
- ・望ましい保育という近年の課題も含め、各園で研修を行っている。本日の内容をしっかり共有していきたい。

(周南人権擁護委員協議会)

- ・人権擁護委員4年目。
- ・人権教室に力を入れており、園児、児童・生徒の皆さんと接しながら、進めていく中で、やはり小さい子どもときから人権意識や人権感覚を育てることが大切だと感じている。

- ・現在は、人権教室のほか、保護者とともに家庭教育の充実に向け取り組んでいる。

（周南市社会福祉協議会）

- ・地域の方々とともに地域福祉の推進を行う団体。
- ・最近是小・中学校向けの福祉教育を行っており、車いす体験などを通して、障害者への接し方等を児童・生徒に知っていただけるように活動している。
- ・ハートフル人権セミナーにおいて、今年度も視覚障害の方と一緒に講師として協力させていただく。
- ・職員に対してはハラスメント研修として、2～3年間をかけて全職員が受講するようにしている。
- ・自分事としては、最近の様々なニュースを字面でとらえず、事件の本質がどこにあるのか等を考えたうえで発言や応答ができるよう、子どもに伝えていきたい。

（公募委員）

- ・常勤の仕事をやめてから、生まれ育った地域の社協やコミュニティ活動に携わっている。
- ・仕事がある間は難しかったが、今はふるさとのために、地域の人との交流を大切に、地域活動を続けていきたいと思う。

（周南市地域人権教育連絡協議会）

- ・地域における人権教育として、市内の10地区（ブロック）に分け、それぞれの地域の特性や、ニーズに応じた人権教育活動に取り組んでいる。
- ・市の地域人権教育連絡協議会を年2回開催し、各ブロックの取り組みなどの情報交換をしている。
- ・今年度も、ブロック内及びブロック間の連携を深めながら、地域の人権教育がより活性化するように努めていく。

2 意見交換

・はじめに（会長）

周南市では学校、地域社会、企業・職場において人権教育に取り組んでいる。

はじめに、(1) 学校における実際の子どもたちの様子をお話いただき、どういうことがこれからの子どもたちに必要なのか、学校現場に意見を聞きたい。その後、(2) 地域社会における取り組みについて聞きたい。

(1) 学校における人権教育

質疑①

今、子どもたちは随分変わってきていると思うが、学校のいじめの件数は減っていないように感じている。学校での小学生はどんな様子か。

応答（小学校長会）

いじめは、決してゼロではない。学校では積極的にいじめを認知しようと取り組んでおり、件数は、おそらく増えているが、私たちとしては把握に努めているということで、肯定的にとらえている。しかしながら、やはり件数は減らしていくべきことであるため、学校の取り組みとして、毎週行っているアンケート等で、問題が小さいうちに、可能な限りこちらが把握して対応をとるようにしている。

子どもの実態について、肌感覚で思うのは、コロナ禍の時代に、幼少期を過ごした子どもたちが、やはり対人関係において影響を受けているのではないかということである。幼稚園から小学校低学年にかけて子ども同士のトラブル等もあると思うが、そこをうまく乗り越えることが、よりよい成長につながると思う。

そのため、小学校においては子ども同士が関わる活動をより一層充実させていかなければいけないと思っている。

質疑②

幼いときからという話について、自分は家庭教育が一番と思っているが、幼稚園での保護者の様子について聞きたい。

応答（公立幼稚園長会）

保護者もそうだが、私たち職員の考え方も、今までとは違うということで切り換えて考えないといけないと強く感じている。ニュースで「適切ではない保育」が報道されていて、あれほど報道されれば件数も減っていくのかと思いきや、全然減っていない。一番子どもたちに関わる私たち大人がいろいろなことをバージョンアップしていくべきで、子どもたちと実践していても、そこに関わる教師や大人、家庭が正しい知識を身に着けていかないと、これからの時代は難しいところがあるのではないかと感じている。昨年、ハートフル人権セミナーに参加した際、保護者の方も各園からの代表として来られていた。その中で研修の感想などを聞く中で、しっかりと園と共有しているように感じた。

質疑③

我々人権擁護委員はいろんな学校を回って人権教室を実施しているが、中学校からの依頼が非常に少ない。実際、中学校でもSNS問題等も起こっているように思うが、その辺りの事情を聞きたい。

応答（中学校長会）

中学校でも人権教育は必要である。学校は、「知・徳・体」として、本校でいうと「知」は研修主任、「徳」は生徒指導主任、「体」は保健主任や養護教諭を中心に取り組んでいる。先日研修主任と学力と人権教育について話し、その中でやはり人権感覚の話が出た。

今学校の授業がかなり変わってきており、明治時代・江戸時代から続いているような一方的な講義ではなく、子どもたちがお互いに話し合う場面があり、どうしてもその子どもの日頃の様子が授業に通じているように思う。「相手の気持ちを考えない発言」をひとつの人権問題ととらえたときに、日々数えきれない人権問題が発生しているぐらいの感覚である。

先ほど、小学校の校長先生からのお話にもあったように、やはり幼少期のときの人間関係において、コロナ禍により、波にもまれるというような経験をすることが、なかなか難しかったように思う。一見、些細なことのように思われることで傷ついてしまう子どももあり、相手の気持ちが分かるよう教えていくことも非常に重要だと認識しているが、保護者に連絡した際に、なぜそれぐらいで連絡してきたのかと指摘を受ける事があり、対応の難しさを感じている。

中学校の人権教室の依頼の少なさについては、人権教育を軽視しているわけではなく、実際に学校単独、または、学校全体、市内全域において、研修を3回程度以上行っており、それに加え、日々の生徒指導関係の会議の中でも人権関係の話は必ず取り上げられている。

「学校教育そのものが人権教育」ととらえるほど、我々中学校にとっては、人権教育は欠かせないものだと思っている。

質疑④

県や国から、デートDVの研修の啓発を図るよう強く要望を受けているが、高等学校のデートDVについて、学校でどのように進めているか聞きたい。

応答（高等学校長会）

全校生徒を一斉に集めて講義をしたというケースはないと思うが、例えば家庭科の授業の中で、家族のあり方に関するお話があったように記憶している。高等学校はいわゆる小中学校の道徳の時間がないため、様々な活動を通じて、課題に対して対応している点が小中学校と異なるところだと思う。デートDVとは少し話が異なるが、男女のジェンダーについて、昨年の文化祭企画が各クラスから挙がってきた。あるクラスの企画がジェンダーの視点から見て、これはどうだろうと思ったときに、子どもたちに投げ返し、皆で振り返りの時間をとった事例はあった。このような学びの機会を、高校のどのような場面で作れるかを考えていきたい。

意見・提言①

今年の7月で、中学校の部活動は、地域に移動或いは廃止となる。先生たちが今まで差し伸べていた手が離れていった子どもたちは、風船のように飛んでいくのか、或いはしっかり自分で根を張るように、家族と一緒に進めていけるのかを心配している。欧米のように、地域のクラブが発達しているところは良い。しかし、今までの学校教育での部活動の役割は非常に大きかった。例えば「ルールを守る」というような社会で必要なことは、実は部活動でかなり育ててきたところもあったと思う。それがどう変わっていくのか、皆さんもぜひ関心もって、子どもたちに目を向けていただきたい。

意見・提言②

人権擁護委員の方でデートDVについての啓発活動を進めているが、デートDVは、DVとは異なる。DVは、同じ家の中に住んでいる、男女とは限らないが、異性間の中での家庭内暴力が該当する。一方で、デートDVは、一緒に暮らしておらず、交際をしている人の間で起こる暴力である。そのことを、せめて高校生の間までにきちんと教えておかないと、ストーカー事件に発展していく可能性が非常に高い。そういう意味で、高校・中学校高学年に対し、デートDVの人権教室を推進している。昨年、周南市の高校で人権教室を実施したが、とても真剣に話を聞いてくれた。その中で、子どもたちにとって暴力と言え、身体的な暴力しか考えていなかったのが驚いた。精神的な暴力は思い浮かばず、とにかく体が傷ついたり、痛いと感じることが暴力と思っていることが多かった。しかし、心のこと、金銭的なこと、経済的なこと、デジタル関係等、定義は様々であり、「そういうことを知らなかった。今回、暴力には様々な形があるということを知った。」という感想があり、とても驚いた。「これからはやはりお互いを大切にしていけないといけない。」と、長文の感想を書いてもらえたことを、とても嬉しく感じた。

(2) 地域社会における人権教育

意見・提言③

先日、中学校の道德の授業に地域から参加することがあり、中学3年生、地域の方、行政の方、女性のPTA会長、周南公立大学のおそらく教職志望の学生が集まって、異世代の道德の授業というものを体験した。その題材として、コロナ禍について事例検討をした。ある女性が新型コロナウイルス感染症で意識をなくし、「命をつなぐ最後のとりで」と呼ばれるECMO（エクモ）につながれていた。その女性は妊娠しており、妊娠の継続自体が女性の命を危険にさらすのだが、胎児を母体から外に出した場合、胎児が自力で呼吸できるほど大きくなっていない状況であった。出産予定までは4カ月もあり、医者から、万が一の場合、妻と、胎児のどちらの命を助けるかを選ぶように言われ、夫は、パートナー（妻）を選んだ。中学校の担任の先生が、パートナーを選ぶか、子どもを選ぶか、参加者に投げかけたところ、公立大学の学生や地域の方はパートナーを選んだ。しかし、中学生7人中5人が、子どもを選んだ。その理由として、「子どもが

将来生きられるかもしれない。生きられる時間が長いのに、可能性を断つのか。」「その子どもが欲しいと思った、父と母の思いや願いも大切だ。」という意見を、中学3年生の子どもが発表した。とても心を揺さぶられ、正解のないというのが道德の授業で、大学生と中学生、地域の人が一生懸命考えた時間がとても奇跡のような時間だったと感じた。これから先、学校で時間を作るのは非常に大変だと思うが、道德の授業を地域参画の中で行うなど、様々な世代がジェネレーションギャップを乗り越えるためにも、出会う機会が必要だと思う。

意見・提言④

人権は、形もなく、とても難しい。私は長く働いていたので、定年をしてから、地域の活動に初めて参画して、どんな人たちがいるのだろうという日々を送っている。そのような中で、地域の人が、月に1回集まって、様々な話を聞こうという時に、人権の話は出てこない。私自身は周南市主催のハートフル人権セミナーの受講や、人権に関する様々なイベントへの参加を通じて、男女共同参画の話や人権擁護委員から話を聞くようにしている。家庭を振り返ってみると、やはり家事分担が、どうしても今まで築いてきた中で、家の中は、いわゆる女性の仕事で、料理も、洗濯も女性の仕事になっている。以前、夫が私の代わりに洗濯物を取りこんでくれた時に、私は「ありがとう」という言葉が自然に出た。しかし、私は長い間、当たり前のように洗濯物を取り込んでいるが、夫からは何もない。ふと考えたときに、これが現実だと感じた。これからの子どもたちは、こういったことが自然にできるようになるのだろうか。それを教えるのが、学校教育や、家庭教育の役割なのかと思う。

・まとめ（会長）

今回、第1回目の協議会での初顔合わせの中、各委員、団体からの様々な取り組みやご意見をお聞きした。人権教育の取り組みの大切さとともに、それぞれの取り組みや考えを知ることができたと思う。本協議会での意見を、各委員が持ち帰り、それぞれの活動や取り組みに生かしていただきたい。そして、次回の協議会では、今回の各委員のご意見を踏まえ、人権教育についての取り組みや課題や対策（解決）に向けて、さらに協議を深めていきたい。引き続き、皆さんからのご意見と協力をお願いしたい。